

緑爽会会報 No. 155

2018年4月25日発行

日本山岳会 緑爽会

發行人 富澤克禮



デザイン・制作 関塚貞亨

～～《報告》～～

2018年度緑爽会総会報告

開催日：4月21日（土） 集会室 出席25名（写真参照）

2018年度緑爽会総会は富澤代表の進行で議事が始まり、下記第1・3号議案については夏原副代表から、第2・4号議案については瀬戸会計より説明があり、いずれも承認された。

第1号議案 2017年度 事業報告承認の件

第2号議案 2017年度 収支決算承認の件

第3号議案 2018年度 事業計画（案）承認の件

第4号議案 2018年度 予算（案）承認の件



緑爽会 定期総会 2018.4.21

小泉義彦、小林敏博、西谷隆亘、梨羽時春、小原茂延、吉田理一、夏原寿一、深田森太郎、松本恒廣

川口章子、鳥橋祥子、福田光子、渡邊貞信、渡部温子、瀬戸英隆、島田 稔、大島洋子

荒井正人、川嶋新太郎、田村佐喜子、近藤 緑、関塚貞亨、五十嶋一晃、富澤克禮

その後富澤代表から「登山計画書の提出とそのチェック体制の構築」に関して説明があった。これは、以前緑爽会としての考え方をお知らせした後の、この問題をめぐる本部・各支部の動向も踏まえて、実際の運用についてどう対応するかを再確認するもので、緑爽会に計画書を提出するのは以前お届けの区分の3通りのみ。また個人情報にも絡むことであり、現実的な計画書はより簡便なもので対処していくという方向であること（多摩支部が行う会員向け説明会なども参考に）が確認された。他支部の動きということで、来られていた秋田、越後、信濃各支部の状況も披露された。

五十嶋さんのお話の前に、遠方からということで福田光子さんと吉田理一さん、久しぶりの出席ということで近藤緑さん、お怪我から回復ということで関塚さん、新しい会員では渡邊貞信さん（新会計担当）と小林敏博さんに一言お話をいただいた。

10分休憩の後、「雪の薬師、槍越え」という貴重な映像を視聴し、五十嶋さんから解説をいただいた。その後、「有峰の狛犬8体を購入した登山者」と題して五十嶋さんの見解を含めてお話していただいた。

この内容については次号で詳細ご報告いたしますが、概略は次の通りです。

「雪の薬師、槍越え」は大正13年に伊藤孝一の登山時に撮影されたものである。伊藤孝一は尾張徳川家の御用商人であった京屋吉兵衛の7代目で、資産家。この映像を撮るための登山に向けて様々な準備をしているが、小屋を建てるなどの費用も含め要した総額は米価換算で約6億円になるという。それだけの大金をつぎ込みながら、伊藤孝一は、この撮影は「吾等及参加雇人並びに其家族等の為めの記念撮影にして、他に何等の意味を有せず」と言い切っている。

伊藤孝一はこの登山の準備段階で有峰を根拠地にしており、そこにこの狛犬が存在した。後にこれを購入することになる。

次号では、伊藤孝一の登山の流儀、伊藤孝一の登山とは一体どういうものであったのか、あるいはなぜ狛犬を購入したのか、また狛犬を巡るその後の動きなどについて、五十嶋さんの見解をお伝えします。

お話は、伊藤が感化を受けたという河東碧梧桐や武田久吉に及び、また随筆とは何かといった問題にまで及んでいきます。次号をお楽しみに！



＜有峰の狛犬＞

＊五十嶋さんが、富山県・立山カルデラ砂防博物館刊行の『研究紀要』第15号（2018年3月刊）に発表されたレポートの「抜き刷り」は、近日中にお届けします。

＜近況報告＞（総会出欠ハガキに書いていただいた近況です。出席の方のものも掲載しています）

山口節子 特に変わらないのがいいことなのでしょうね。皆様お元気そうで嬉しいです。本人は身辺整理に励んでおります。

芳賀孝郎 いつも会報を見ています。5月、6月上京します。都合がつき次第、会合に出席したいと思います。

山本良子 残念ですが19日より23日に四国旅行が入ってしまっています。早い段階での予定で、昨年からは緑爽会総会が4月になりましたのに申し訳ありません。新年度もよろしくお願い致します。

田村佐喜子 いつもお世話をおかけしております。3月山行の日連アルプス、鳥橋さんから半強制的に参加を約束させられてしまいましたが、歩けるかどうか・・・と心配ですが、ご迷惑をかけないよう

- がんばるつもりです。
- 梨羽時春 大学山岳部は飲み会、日本ハイキングクラブはお食事会をやっています。
- 松本恒廣 80歳を過ぎて、病院通いが多くなりました。先ずは関塚さんを目標に取敢えず90歳まで頑張る。
- 佐藤淳志 鳥海山の麓で楽しんでます。イヌワシの調査も25年続きました。ようやく暖くなり、新緑の峰上がり待ちこがれます。
- 羽賀克己 長い間ありがとうございました。3月末日にて退会いたします。貴会の益々活躍を祈念いたしております。
- 近藤緑 脚の不具合で手押し車をはなせず、名ばかりの会員となりました。陽春を迎え、久々に参加しようと思います。なつかしい方々との再会を楽しみにしております。
- 関塚貞亨 怪我から一か月以上が経ちましたが、高齢による回復力の遅れから、まだ、すっきりとはしません。脳の方は完全だと医者から保証されましたが、本復までは60日かかるとのことで、4月15日が60日目なので、待っていて期待しているところです。2月はご迷惑をおかけしましたが、総会で皆様にお会いするのを楽しみにしています。
- 吉田理一 「70才にまさかのオファー」・本年4月から近くの県立高等学校に週4日間講師として勤務することになりました。
- 渡部温子 2月中頃から体調を崩し臥せっている日が多かったのですが、やっと峠を越えました。五十嶋さんにお逢いできるのが楽しみです。
- 高辻謙輔 いつも欠席で申し訳ありません。盛会を祈念しております。
- 平野紀子 欠席、申し訳ありません。先約がありましてザンネンです。南川さんの講演途中に退席し失礼致しました。息子たちが尾瀬ヶ原(第二長蔵)へ除雪に入って戻ってくるとのと、翌日、また上山するため家に居ることになりました。3月24日の山行、参加したく申し込みます。よろしく願います。
- 森 武昭 神奈川支部を中心として月2回の山行を心掛けています。皆様とご一緒できるのを楽しみにしています。
- 鳥橋祥子(信濃支部) 姪の子供達の世話で相変わらずあわただしい毎日です。物忘れが多くなってきました。
- 中澤喜久郎 近年、歩行が困難になり今年3月をもって退会します。永年お世話様になりました。
- 島田 稔 80歳台後半になり体力の減退をひしひしと感じて居りますが、皆様の迷惑にならぬよう努めたいと思って居ります。
- 小清水敏昌 詩吟の大会があるもので欠席させていただきます。申し訳ありません。最近では会員のお名前とお顔が少しずつ分かってきました。今後もよろしくお願い申し上げます。
- 長沢洋(山梨支部) 仕事柄なかなか出席できず申し訳ありません。1～3月は冬眠中で、仕事もせず、じっとしています。
- 富澤克禮 代表をお引き受けして2年、会員の皆様のご協力のお蔭で何とかやってこられました。これからも、皆様に喜んで頂けるような活動が出来ればと思っております。最近、週2回位のペースで、高尾山を歩いて、植物等を楽しんでおります。
- 尾野益大(四国支部) 小島烏水がアメリカにいる時代、登り残したシャスタ山に、四国支部のメンバー8人が登ってきました。
- 夏原寿一 昨秋、軽登山靴を買いました。それまで履いていた靴の底が剥がれたので。キャラバンシューズ、ナーゲル、ビブラムと履いてきた山靴――「山靴を買うのもこれが最後だろうなあ・・・」と思いながらレジに並びました。・底の剥がれた靴は修理して街歩き用に！
- 瀬戸英隆 かなり体力の衰えを感じていますが元気です。先月、連続50ヶ月登山を達成しました。
- 田井具世 法要のため欠席致します。なかなか法要の期日が決まらず、お知らせが遅くなってしまい申し訳ございません。 齢と共に山行が遠退いてしまった分、美術館巡りなどをして気分を高揚させている此の頃です。ご盛会をお祈りいたします。
- 鎌倉淑子 元気にくらしておりますが体力がなくなり、3km以上の登り、スキーは80歳をもってやめました。

- 渡邊貞信 稲城市の陶芸クラブ(約70名)の会長職の最終段階で、3月～4月初めの総会での一年間の活動報告、会計報告、次期役員への引継ぎなど猛烈に忙しく、最近やっと少し落ち着いてきました。この間、山には縁遠くなり悲しいです。また、皆様と山歩きを楽しみにしています
- 深田森太郎 病院通いの多い昨今ですが、今年はもっと山に行きたいと思っております。よろしくお願い致します。
- 西谷隆亘 インターネットで「武田久吉博士からの写真」に 300 頁弱の「武田久吉の年譜」を見つけました。
- 西谷可江 ご無沙汰いたしております。4月10、11日とお花見山行で数年ぶりに茅ヶ岳に登って参りました。緑爽会から深田祭に参加した日のことを懐かしく思い出しました。深田氏終焉の地、石碑前で皆で手を合わせ、遺徳を偲びました。
- 中村好至恵 転居前(寸前)でこの葉書が行方不明になる前に投函致します。おそらく 4/21 に大丈夫と思いい…、自分のこと精一杯で申し訳ありません。
- 荒井正人 左足首捻挫の慢性化ばかりでなく、右ひざ痛がなかなか治りません(治す本気性の問題でしょうか)。そこで「70歳までに二百名山完登」という治療薬を使ってみることにしました！
- 横関邦子 いつも欠席ばかりで申し訳ございません。7 月にダンスの発表会があるため土曜は練習しなければならない状況です。春になり山歩きをしたいと思っております。
- 藤下美穂子 昨秋、仕事を終えました。私事ですが、30 年ぶりに山谷のお手伝いを始めています。スタッフの働きに感謝しています。山は少しずつ歩きたいです。
- 小原茂延 低山、植物観察&三角点探訪、登山史、山岳書との出会い、行けないヒマラヤの文献調べ、詩歌に親しむことなど愉しんでいます。
- 小林敏博 この春で入会 2 年目に入る小林敏博と申します。この 1 年間皆勤とは参りませんでしたが、総会、暑気払い、例会、山行に参加させていただき、日本山岳会の同好会らしい文化の薫り高い雰囲気をも十分に楽しませていただきました。これからも伝統ある会の活動をとおして皆様から山のお話をうかがい、自分の山の裾野を広げていきたいと思っております。
- 加藤大雄、真美 この度入会したばかりの加藤大雄、真美です。総会当日は他用があるため出席できませんが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。緑爽会の方々は山のレジェンドの方々ばかりと小林敏博さんに伺っており、今後、お話しをお伺いするのをとても楽しみにしております。

2 月例会/懇談会

日 時：2 月 2 6 日（月） 集会室

参加者：1 9 名 山本良子、田村佐喜子、松本恒廣、渡部温子、平野紀子、鳥橋祥子、大島洋子、島田稔、小清水敏昌、富澤克禮、夏原寿一、瀬戸英隆、田井具世、渡邊貞信、小泉義彦、西谷隆亘、石塚嘉一、荒井正人、小原茂延、

2 月例会は当初、関塚さんにお話をいただくことになっていましたが、お怪我をされて外出が厳しいとのことで、急遽、南川さんにお話をいただきました。会報 1 5 4 号の印刷・発送が午前中に終わっており（当日出席の方には直接お渡ししました）、そこに南川さんのご寄稿「武田久吉の日光」がありますので、これを教材に行間を読むと言いますか、書かれていないことや、南川さんの推測などをお話しいただきました。

南川さんのお話

ピンチヒッターとは監督から指名されて出ていくものなので、初めから真ん中に座っているわけにはいかないと（一同笑）正面に立たれて話が始まった。会報には2ページに収めるようにしたのでカットした部分も多い。それらを書いた内容に沿って話を進めるということでした。

最近十何年ぶりで日光の山へ行った。月日が経つと自分の側の見方や感じ方も変わってくる。そんな中で、武田久吉にとっての日光はどんな場所だったのかと思ってまとめた。

<日光の別荘>

父アーネスト・サトウは大英帝国の日本公使であり、日光に別荘を持てる立場にあつて、武田も若い時から日光に長期間滞在することが出来る身分にあつた。つまり、山に行き、植物採集をするなどには好都合な環境に恵まれていたということだ。日本山岳会設立メンバーの小島烏水は東京、高頭仁兵衛は新潟にいて、尾瀬など意識していなかったろうが、日光に居てこそ感じる空気感があると思う。彼にとって日光は特別な場所だったと言える。ただ彼は家族で過ごしたことや別荘については殆ど書き残していない。それは彼の生い立ちや立場からは、書きにくい状況でもあったということだろう。

学歴についての補完と登山に関して。東京外国語学校卒業とはなっておらず、独語学科選科終了で学位が無い。それで就職に苦勞する。（お話が終わっての質問コーナーで、イギリスで学位を取得したのにもかかわらず苦勞したのはなぜかとの質問が出た。それに対して南川さんは、推測だがやはり日本国内の当時の学歴評価の在り方の問題だろうと回答された）



その間に山にかなり行っている。明治38年に河田黙と白馬岳に登り、10日間も滞在している。これは当時としてはすごいことで、初めてではないか。植物採集の執念だ。それが尾瀬でも発揮される。

武田のことを理解するには、彼の書いたものだけではなく父アーネスト・サトウの日記等、両面から探らないと立体感が出てこない。サトウの日記といえば萩原延壽の「遠い崖」があるが、これとて「日記抄」だから全部ではない。原文でオリジナルを読まないといけない。（ちなみに注書きの「駒沢女子大学研究紀要」はネットで見られる）

<ハンドブック・フォア・ジャパン>

第Ⅱ版は図書室にはないが（山崎文庫として他のものはある）、この本は山岳の世界では意味のあるもので、当時これを手にして読んでいる日本人はそうはいない。これには徳本峠越えして槍ヶ岳へのルートが出ており、ウェストンそれを辿って槍ヶ岳に登っているが、小島烏水・岡野金次郎は別ルートで、まさに冒険のような槍ヶ岳登山をしている。ところが武田は手にしていたのだ。入手経路は父からとしか考えられないが、そういったことは書くのが憚れる状況だったと推測される。

<父親の思い出の地>

会報に『明治の山旅』で一か所だけ父と旅行したとの記述があると書いたが、そこでは「思いもかけず父親に連れられて」という表現で書いてあるだけで、他に父親のことについて書いたものは見当たらない。公使である父親の体面というか立場を考え、本人も家族もプライベートなことは覗

かれたくないと、気を遣っていたに違いない。出自を考えると悩みもあったろうし、僻みたくなるようなこともあったはずだが、母親から教育を受けたか、抑えて一切触れていない。こうした状況は彼の性格形成に影響があったと思われる。

(構成・写真：荒井正人)

なお、南川さんのお話に関連して、中村好至恵さんに、日光自然博物館で開かれた「武田久吉展」ならびに英国大使館別荘記念公園を訪問した『武田久吉展』を訪ねて」を書いていただきましたので、「投稿/寄稿」コーナーも併せてお読みいただきたいと思います。(編集部)

その後、富澤代表より「登山計画書の提出とそのチェック体制」について会としての考え方が示されたが、会の性格が変わるとか、退会するものが増えるのではないかと、この本部の方針に懸念する声が多かった。

3月山行 日連（ひづれ）アルプス

小林 敏博

実施日：3月24日（土）

参加者：16名（写真参照）

21日に降った残雪を心配しましたが雪はすべて融け、春の日差しの中の山行を、皆さまのご協力のおかげでつつがなく実施することができました。初めて山行担当を仰せつかり、山行準備段階から夏原さん、富澤さん、瀬戸さん、荒井さんからアドバイス、ご支援をいただきありがとうございました。

大方のハイカーは、JR藤野駅の南に位置する日連アルプスを、浮石が多く急坂が長い最西端の金剛山にまず登り、東へ縦走して宝山から下山します。今回は急坂の距離が短い宝山から登って西へ縦走し、縦走路の中央にある杉峠に戻ってから下山することにしました。

遠方から田村佐喜子さんや平野紀子さん、新たに入会された加藤ご夫妻も参加され、総勢16人の大所帯の山行となりました。藤野駅前に参集後、簡単な自己紹介、コース概要の説明をしてから出発。日連大橋へ向かう。日連アルプスの山並みが目の前に大きく広がってくる。橋を渡って舗装道を左へ緩やかに登っていく。道路脇には野草が小さな花をつけ、満開の桜も里山の麓を彩っている。40分歩いて着いた日連神社で小休止。往時、金峯山蔵王権現といわれた神社の境内には江戸末期に建てられた拝殿、宝永期の本殿があり、両部鳥居の朱が鮮やかなのが印象的だった。

神社から5分ほど歩くと、民家脇に宝山への登山口を示す小さな道標がある。登山口は宝山北側にあり、濡れ落ち葉で被われた緩やかに登る道を、山裾を東へ回りこむように進むと、この縦走路中、一番の“難関”である20メートルほどの急坂が現われた。急坂には雑木の幹にロープが括り付けられている。皆さん、ストックを背中とザックに間に差すなど手馴れた手付きで急坂登りの準備を整えてからロープをつかみ雑木の幹を握り、足元を確認しながら慎重に登る。雑木越しに相模湖の緑の湖面を右手に見下ろしながら、さらに15分登ると宝山頂だった。汗が引くのを待って2つ目の山を目指す。緩やかに下り、登り返すと10分で小高い山頂をもつ日連山に着く。ここで可愛い山名板を入れて集合写真を撮る。日連山からは雑木に囲まれた小ピークを越えながら下っていくと、小さな石祠のある杉峠に至る。峠からは再びやや勾配のある登りとなる。道を埋める乾いた落ち葉を踏みしめながら20分登ると、峯山への道標と出合い、縦走路をはずれて北へ向かう。わずか1、2分でウナギの寝床のようなさして広くない峯山山頂に着く。縦走路中、唯一眺望の優れ

た頂で、春霞で薄くもやった甲武相の山並みが目の前に大きく広がっていた。だれもない山頂を私たち16人で独占、暖かい日差しの中でゆっくりと昼食を楽しんだ。いく人もの方が「ザックを軽くしたいから」と冗談を言いながら「どうぞ」とおやつを振舞ってくれる。時間が多少押していたことから鉢岡山登山は中止し、出発の準備をしている皆さんにその旨を伝える。「20分で3枚描けた」とスケッチブックを閉じながら中村好至恵さんの言葉に周りは「20分で3枚も!？」と驚く。

峯山の先にある狭い八坂山頂を踏んで、縦走路へ戻り最後の金剛山へ向かう。「大した登りもなく10分もかかりませんから。」と後を振り向いて伝えると、私のすぐ後ろを歩く田村さんが「だったら倍の20分ね。」と冗談で応えられたが、7、8分で金剛山に到着。広い山頂の真ん中には、イザナミノミコトが最後に生んだといわれる火の神様・火之迦具土（ホノカグツチ）を祀る小さな社が建っている。脇には地元の杉自治会による金剛山神社の由緒もあった。山頂をあとにして歩いてきた道を杉峠まで戻り、北へ杉集落に向かう昔道を下る。途中、嘉永の年号が刻まれた馬頭観音に目を留める。じきに目の前に民家が広がるところに飛び出し、急な舗装道を下っていく。やがて往きに歩いた道と出合い、日連大橋を渡って藤野駅に戻った。

藤野駅前の唯一の居酒屋『風里』で、無事の下山を祝して乾杯。「次の電車まで30分あるので、1杯くらいなら。」と田村さんも参加されたが、予定の「3倍」の時間をお付き合いいただいた。皆さま、お疲れ様でした。



日連山山頂にて（写真：夏原寿一）

（後列左より）富澤克禮、石塚嘉一、小清水敏昌、小林敏博、加藤大雄、加藤真美、平野紀子、夏原寿一
（前列左より）瀬戸英隆、中村好至恵、島田稔、田村佐喜子、田井具世、大島洋子、鳥橋祥子、荒井正人

〔コースタイム〕 藤野駅(9:20) ⇒ 日連神社(10:10) ⇒ 宝山登山口(10:15) ⇒ 宝山(10:55) ⇒ 日連山(11:15) ⇒ 峯山(12:15)《昼食・休憩》 峯山発(13:10) ⇒ 八坂山(13:15) ⇒ 金剛山(13:25) ⇒ 杉峠(14:05) ⇒ 藤野駅(14:45)

緑爽会 3 月例会山行に参加して

加藤大雄・真美

「山はニチレンアルプスらしいよ!」「日蓮上人と関係があるのかね?」と夫婦で山の名を間違えながらも楽しみにしていた緑爽会初参加の山行。藤野駅前 9 時に総勢 16 名の山の仲間が集合、各自簡単に自己紹介。元来、人の名前を覚えるのは苦手だが、暫くは無駄な努力をするも、「いずれ覚えられる」と開き直る。

相模川を跨ぐ日連大橋へ。諸先輩方の温かいお心遣いを感じつつ、美しい里山の景色を楽しんでいると日連神社へ到着。境内の満開の桜の大樹が目を楽しませてくれる。宝山を登り始めると、ロープのある急斜面が立ち上がるが、誰もが涼しい顔でスイスイと登って行かれる!宝山を経由して、相模湖を右手にチラチラと見ながら日連山山頂へ。集合写真を撮った後、楽しみにしていた昼食の地、峯山へ。峯山の頂上からは、上野原の街を貫く桂川、右側から目を移していくと、陣馬、生藤、三頭、さらに遠方に目を凝らすと残雪をいただいた大菩薩峠の大パノラマが。2 月に行った小金沢連嶺の稜線から見た美しい景色が心に蘇ってくる。大展望をおかずにご飯を頂いていると、とても美味しいおやつをいくつも頂き、胃袋も大満足。重くなった体で少し軽くなったリュックを背負い八坂と金剛をピストン。杉峠を経由して一路藤野駅へ。最後は、駅前の「風里」というお店で諸先輩方の経験を交えた、楽しくも為になる山の話をお聞きしながら、美味しいお酒と料理に時間が過ぎるのも忘れしました。



* 自己紹介 *

わたしたち夫婦は合計年齢が 100 歳を越えています。子供はいませんが、猫を数匹飼っています。日本山岳会に入会したのは、1 年半前です。それ以前は、夫婦で奥多摩や秩父、丹沢などの東京近郊の山を中心に登っていました。数年前にボルダリングを始めましたが、終わった後のビールが問題なのか体重の減量も遅く、あまり上達できていません。以前は、冬は完全なオフシーズンでしたが、山岳会に入会してからは、冬山登山、ゲレンデスキーと手を出しています。また、今年からはアイスクライミング、沢登り、ロッククライミングと楽しそうなことに手を出しているせいか、お財布の減量はできています。今後、季節を問わず、山を多方面から楽しんで、色々と経験を積んで行けたらと考えています。また、山に関わる文化（お酒や食べ物を含む）などにも興味があります。将来は山を中心に据えた生活が出来ればと密かに企んでいます。緑爽会の諸先輩方と山の楽しいお話をさせて頂きつつ、今後の私達の山ライフのお手本にさせていただきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

「武田久吉展」を訪ねて

中村 好至恵

昨年（2017）4月29日～7月9日、日光「華厳の滝」に隣接する栃木県立日光自然博物館で開かれていた「武田久吉展」に会期終了間際の7月7日に行ってきました。前号の南川さんの《特別寄稿》は大変興味深い内容でしたが、ここでは武田久吉の企画展と共に、久吉の父親アーネスト・サトウの個人別荘を改築し「英国大使館別荘記念公園」として一昨年より中禅寺湖畔に公開された施設を併せての訪問記を記したいと思います。

日光自然博物館は充実した施設で、当日は一般常設展示なども見て回りましたが、何故か館内は大変空いていて本命の企画展「武田久吉展」は贅沢なことに貸切り状態でゆっくり回れました。久吉が出会った人々との関わりのなかで、どのように山や自然・植物に親しんで行ったか…、その植物学者としての軌跡がストーリー仕立てで分かりやすく展示されていました。

また会場中央にある常設の大きな日光周辺山域のジオラマ模型を使って、往年の久吉が通うように登った日光の山々を、歩いた年代別に色分けした毛糸を使い、歩いた道なりに糸を引いて軌跡がひと目で分かるような展示工夫が施されており、その精力的な探求足跡が一目瞭然でした。

ケース内の久吉が使った登山用具なども興味深かったですが、特に少年期に使ったメンコや双六などの玩具（紙製のもの、よく残っていると思いました）などは心が惹きつけられました。展示点数自体はさほど多くはありませんでしたが、日本山岳会会員・植物学者以前の幼少の頃や若い時期の久吉を想像できる展示に出会えたのは思いがけない喜びでした。

思いがけないと云うことでは、父親のアーネスト・サトウの別荘を復元した「英国大使館別荘公園」の施設での展示でも感銘を受けたものがありました。この施設は中禅寺湖畔に立地し、テラスは美しい湖に面し、当時多くの大使館や外国人別荘の国際避暑地として賑わった名残を感じることができますが、館内には A. サトウの外交活動や日本での行脚を多くの写真を使って表し、また往時の雰囲気を出す調度品も品良く並べられています。

その中にシンプルでありながら精緻なデザインの何とも洒落たライティング・デスクがありました。解説文に加え後日、管轄の日光自然博物館に問い合わせたところ、このデスクは久吉が英国留学中に父親から贈られたもので、日本に帰国の際も持ち帰り、その後もずっと使い続けたもののとのこと。机は 1890-1910 年英国製で



＜中禅寺湖畔の英国大使館別荘の外観＞



＜父から贈られたデスク＞

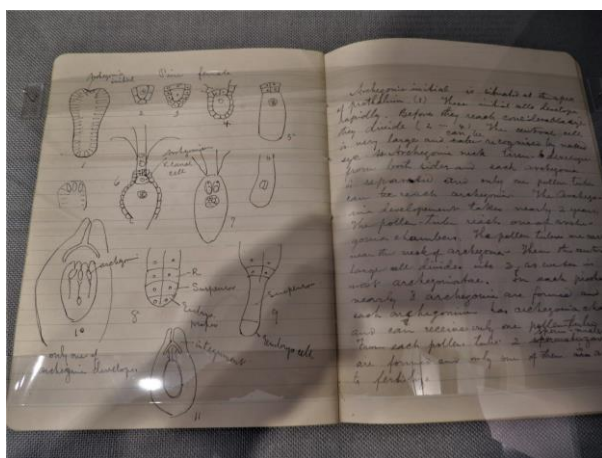
アーツ&クラフツ運動（＊）時の作だそうで、なるほど機能性と美がほどよく相俟ったデザインの逸品でした。（久吉の娘・武田澄江氏より寄贈）

久吉は帰国時に、大きな調度品であるそのライティング・デスクをおそらく苦勞して持ち帰ったであろうこと、日本でもそれをずっと大切に使い続けたと云う姿を考えると、前号で南川さんが記されていたようなく多くを語ることはしなかった＜心情がその思い出の机にこもっているように感じるのです。

この日光訪問の旅では、植物学者・登山家・日本山岳会創始メンバーの一人・また会長を務めるなど威厳ある武田久吉の姿とともに、幼少期や青年期の微笑ましい情景を思い描いたり、また父からの贈り物を大切に使い続けた久吉の心にも触れることが出来たようで、単なる展示閲覧で終わらない何か＝語られなかったもの＝を記憶に残す訪問でした。

「英国大使館別荘記念公園」は 4 月 1 日～11 月 30 日の開館で、久吉の使用した「1930 年 日本山岳會製 山日記」などの手帖類、また緻密な植物画や観察記録を英文で記載したものなど久吉にまつわる展示品もあり、＜植物採集という趣味が昂じて植物学を生涯の研究テーマとすることを決定づけ、高山植物を通じての人脈づくりの場所だった＞ことが偲べます。中禅寺湖の眺望と共に館内の英国風喫茶でマフィンとイングリッシュティーを愉しみながらのひとときも過ごせますし、避暑ハイキングには「日光自然博物館」と併せて緑爽会会員にはお勧めの訪問先と思われます。

（写真：中村好至恵）



＜植物画と英語で書かれたメモ

ーガラスケースの外から撮影＞

＊ アーツ&クラフツ運動：1880 年代から始まった、主として英国の詩人・思想家・デザイナーであるウィリアム・モリスによるデザイン運動。生活と芸術を統一することを主張、後にアール・ヌーボーなどの美術的な流れに影響を与える。

＊ ＜＞内は前号の南川さんの記事より引用

「50ヶ月連続登山の記」

瀬戸 英隆

去る2月14日、丹沢山城東側にある鐘ガ嶽（561m）に当会の友人荒井氏と登った。低山であり、山麓に岩場と温泉がある以外に特にどうという山ではないが、私にとっては記念すべき登山であり、帰路本厚木の居酒屋ではかなり酔って、何と電車を乗り越す羽目になった。

それはこの登山が、連続50ヶ月目の山だったからである。この日の私は83歳と2ヶ月弱。

50回前の山は平成26年1月の御岳山で、この時まだ79歳1か月。即ち50ヶ月は4年余を過ごしたことになる。初めは特に連続何ヶ月等全く頭になかったが、1年が過ぎ2年目に入る頃に少し意識しはじめ、24ヶ月が過ぎた頃は、その記録挑戦への意欲が高まっていた。

まずは第一に毎月登れる体力、何の病気もしない注意などが挙げられた。体力については15年前から通っているジムでのトレーニングを更に強固なものにし、特に大腿四頭筋を鍛えることに集中し、歩行機では歩行と走行を最低でも10間、毎日行った。これでほぼ1時間。次いでプールで水泳。当時は500mから800m泳いでいたが、泳ぎは殆ど効果なし、むしろ逆効果と本で読み、水中歩行に切り替えた。これらの努力は日常的に強い意志を必要とした。

10ヶ月目は高尾山、15回目は大山と続いたが何しろ高齢者、低山が多くなっていった。

19回目の入笠山は2000m近くあり、少々手強かった。20回目の伊吹山は1310mを越えていたがツアー利用で安直に登頂できた。やや不満も残ったが。

よく登った山は高尾山系が多く、八王子城址を含めれば16回。学生時代は北ア専門の状態だったので、奥穂か北穂を考えたがやはり無理かと。せめて西穂へと22回目は友人夫妻と独標を目指したが、手前の丸山で終わる。無念！

34ヶ月目は戸隠高原を歩いた。40年以上前にこの地に私の中学時代の山岳部OB会の小屋が建てられたが、もっと若いOB達の前頭に立って建設の真ただ中に居た。思い出深いその小屋に一泊。昔と変わらぬ清潔が保たれ、さすが後輩達よ！の旅となった。

この頃完全に50ヶ月を強く意識し、結果として出る50ヶ月か、その為の登山かと心理的には反省の気持ちもあったが、人生この位のことは許されると勝手に言い訳し前進していった。即ち連続性を保つための登山もあって、結果として高尾山系が多く選ばれていたが、昨年8月、陣馬山から高尾山への縦走をやってみた。大したことないだろうとスタートしたが、炎天下すごいシゴキに遭い、高尾山に着く頃は完全に熱中症。登りで身体が後ろに引かれるあわやの場面もあり、完登した時はへろへろ。座ったまましばし動けなかった。これが44回目。そして最後の回目は、何十年も行っていなかった鐘ガ嶽を選んだ。岳友荒井氏の同行がとても嬉しかった。

以下、参考までに50回の記録である。

<登山形態>	単独行	24回(48%)	<山域>	高尾山域	18回
	妻と	10回(20%)		奥多摩	5回
	友人と	8回(16%)		丹沢山系	10回
	緑爽会	7回(14%)		北アルプス	2回
	神奈川支部	1回(2%)		その他	15回

～～《予告など》～～

5月例会 懇談会 関塚さんのお話

日時:5月19日(土) 13時～ 集会室

2月にお話しいただく予定の内容を5月にスライドする形で関塚さんにお話しいただきます。

「思いつくままに」と題して博学多識の関塚さんお好みのカメラや西洋磁器のことなど、山以外の面白いお話も楽しみに！

6月山行：箱根「明星ヶ岳」(担当：荒井正人)

日時・集合：6月9日(土) 9時 JR 小田原駅内の大雄山線乗り継ぎ改札

行程：9：12 大雄山線で大雄山駅へ(9：33着) 9：50のバスで登山口の道の尊→約3時間で明星ヶ岳山頂(展望と昼食)→約2時間で宮城野へ下山(15時半頃)→バスにて湯本か小田原に出て解散。(希望者は入浴)

皆さんご存知のルートだと思います。天気が良ければ富士山を眺めながら歩けます。

参加希望者は前々日までに以下宛ご連絡ください。

通常の日帰り山行の装備をお願いします。入浴したい方はその準備も。

※荒井



7月暑気払い

日時：7月21日(土) 13時～ 集会室 会費：1000円

お弁当を用意します。お持たせ歓迎です。

当日は「歓談会」として皆さんに近況のみならず、最近のJACについて思うこと、緑爽会への思いなどなど大いに語り合いたいと思います。

会費納入の件：新年度会費<1500円>については以下の方法で納入してください。

- ・振込の場合：郵貯銀行から振込 10000-18539041 「リョクソウカイ」
他金融機関から振込 008-18539041 「リョクソウカイ」
- ・切手の場合：82円切手を19枚(82円×19枚=1,558円)を下記にお送りください。

渡邊貞信

会員異動

- ・退会者：羽賀克己(7500) 中澤喜久郎(10986)
- ・新入会員：加藤大雄(A0011) 加藤真美(A0012) ご夫婦です

一名簿の充実に向けて一

引き続き「携帯番号」「(PC) メールアドレス」について、差し支えない範囲でお知らせください。

- ・連絡先：夏原寿一

--- 編集後記 -----

寒く長い冬が過ぎると一気に夏！冬季オリンピック・パラリンピックも遠い昔のことに感じられます。それでも今年は桜を楽しめましたね。今号は12ページとなりました。年1回のハガキにある近況を全部掲載しました。ぜひ、書ききれないことを投稿でお寄せください。

南川さんのお話と中村さんの訪問記。合わせ読むと、父から贈られたデスクを大事にしていた武田久吉の心情がよくわかるように思います。そしてその後の性格や生き方も。(荒井正人)

<次号予告> 2018年6月25日発行の主な内容

報告：4月総会後の五十嶋さんのお話し、5月関塚さんのお話し、6月山行

<皆様からの投稿をお待ちしています>